

令和6年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22001

学校名：北九条小学校

	令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、反復横跳び、 50m走、 20mシャトルラン 、 立ち幅跳び 、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 長座体前屈	男子は多くの種目に向上が見られた。 外で遊ぶ習慣が身に付いている児童が多く、 体力の向上が顕著に表れている。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 上体起こし、 20mシャトルラン 、 反復横跳び、50m走、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、長座体前屈、立ち幅跳び	女子は持久力の向上が顕著に表れている。 体を動かす習慣が身に付いてきている。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	・「運動やスポーツをすることが好き」「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R4 男子：89.4%、女子：93.8% R5 男子：95.6%、女子：92.9%	・体育科の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合 R4 男子：16.6%、女子：15.6% R5 男子：0%、女子：17.8%	男子の運動機会に改善が見られる。運動機会が多い児童と少ない児童の差が大きく開いている。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

【毎時間の体づくり】

・年間を通した体力の向上を目指し、体育授業の最初に感覚づくりの運動を取り入れる。

【日常の保健・体育授業の充実】

・その運動でしか味わえない楽しさや難しさを感じることができるように、ICTを活用し、個人やグループの運動を振り返り、伸びを実感できる機会を設ける。また、保健の授業では自分の今の生活を振り返ることを大切に、今後の自分の生活のあり方を考えることができるようにする。
・運動量の確保のために、単元の中で技能を高め、身に付けることができるような時間を設けたり、1時間の授業で20分以上の主運動時間を確保したりする。

【体を動かしたくなる環境整備】

・**グラウンド**…サッカーゴール、ドッジボール用のコートの常設。各学級に投げる、蹴る用のボールの配付。

・**体育館**…垂直跳びの目標、反復横跳びのラインの設置。

・**テラス**…年間を通した縄跳び・長縄の専用スペースの確保。

・**冬の雪遊び場**…的あてストラックアウトの設置。米どり用のミニ山、体を動かせる平地ゾーンの設置。

【仲間を意識した休み時間の活用】

・マット月間、跳び箱月間を設けることで、体育授業の運動時間を確保する。

【栄養教諭による食指導の充実】

・各学年の発達段階にあった内容を行うことで、食に対する関心を高め、大切さやルールを学ぶことができるようにする。

【養護教諭による性に関する指導の充実】

・外部講師も活用し、命を大事にしようとする気持ちを高められるようにする。

【外部講師による歯の健康の充実】

・歯のつくりや歯磨きの大切さを学ぶことで、日々の生活とつなげて自分の歯や体を大切に考えることができるようにする。

家庭・地域との連携・協働

○体育科の研究授業や日常授業を通した子どもの実態把握とその発信

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用と家庭との共有

○体力測定の実施

【1学期 全学年4種目【50m走・ソフトボール投げ・反復横跳び・20mシャトルラン】測定／10月全学年20mシャトルラン測定

○児童アンケートや、学校評価における保護者アンケートの活用

